

市政に対する

一般質問

今定例会では、14人の議員が9月3日、4日、5日に一般質問を行いました。質問の中から、主なものを質問者順に掲載します。

一般質問とは、議案と関係なく市の行政事務の状況や将来に対する方針などをたたずもので、市側は、質問に対し基本的な考え方や問題解決策について答弁します。

四本奈緒美議員

- 人と動物が幸せに暮らすまちづくりについて
- 奨学金返還支援制度について
- 幸手市立第二保育所の周辺道路の安全整備について

小林啓子議員

- 「エンディングノート」作成について
- 市内小中学校給食調理室へのエアコン設置について
- セカンドブック及び読書通帳の進捗状況について

坂本達夫議員

- 洪水対策について
- 幸手市役所入口交差点の右折禁止解除について
- 幸手駅西口の活性化について
- デマンド交通について
- 庁舎建設基金条例について
- 桜の季節の交通渋滞について

本田謡子議員

- 防災について
- 市職員のコンプライアンスについて

松田雅代議員

- 広島平和記念式典派遣事業について
- 全国学力・学習状況調査の詳しい分析結果について
- 東部消防組合幸手西分署廃止について
- 人口減少対策、地域創生への幸手市の取り組みについて

海老沼隆夫議員

- 広島平和記念式典派遣事業について
- 栄地区・公団幸手団地について
- 子育て応援日本一をめざすまち幸手市について
- デマンド交通他について

大平泰二議員

- 神扇地区のごみ屋敷問題の進捗状況について
- 保育ステーション計画の推移状況について
- 治水対策について
- モニュメント「ヤミ」予算について
- 広島平和記念式典派遣中の市長現行犯逮捕に対する市としての見解について
- 交通安全対策について

小林英雄議員

- 圏央道側道の久喜市側との接続について
- 生産緑地制度について

青木章議員

- 幸手桜高校について
- 東京オリンピック、パラリンピックに向けた幸手市の対応について
- 市内の土地利用等について

小河原浩和議員

- 郷土資料館の充実・振興について
- 公民館の充実・振興について

木村治夫議員

- 健康づくりの推進について
- 権現堂調節池（行幸湖）の活用について
- 市道の幅員について
- 治水、排水対策について

枝久保喜八郎議員

- 渡辺前市長の退職に至る経緯と今後の対応について
- 幸手駅西口モニュメントについて
- 学校現場の実態と改革について
- 市職員の長期休暇の実態について
- 幸手中央産業団地について
- 期日前投票業務の委託について
- 幸手市人口の未来図について
- 市公共交通機関の今後について

武藤壽男議員

- 平和記念式典派遣事業における市長の辞任に至る事務方の対応と今後の危機管理について
- 現時点における事務当局の本市の課題と事業選択についての認識について

藤沼貢議員

- 駅西口土地区画整理事業の今後の取り組みについて
- シルバー都市宣言（仮称）について

8月臨時会

傍聴者	33人の方が傍聴されました。
-----	----------------

9月定例会

傍聴者	41人の方が傍聴されました。
-----	----------------

議会インターネット中継のアクセス件数			
インターネットを利用した議会中継(ライブ及び録画)を行っております。			
7月	439件	8月	1700件
9月	3271件	の方が視聴されました。	

9月定例会 会期日程

- 9月2日(本会議)
 - ・開会・会期の決定・報告事項
 - ・市長職務代理者提出議案一括上程、提案理由説明
- 9月3日・4日・5日(本会議)
 - ・市政に対する一般質問
- 9月11日(本会議)
 - ・議案に対する質疑
 - ・議案の委員会付託
- 9月12日・13日(委員会)
 - ・文教厚生常任委員会
 - ・総務常任委員会
- 9月17日(委員会)
 - ・建設経済常任委員会
- 9月19日(委員会)
 - ・委員報告、質疑、討論、採決
- 9月26日(本会議)
 - ・閉会

- それぞれの内容の詳細は会議録および市議会ホームページ（インターネット映像配信システム）でご覧になれます。
- 会議録は図書館、各公民館の図書コーナー、市役所の情報公開コーナー、または市議会ホームページで公開しています。
- 9月定例会の会議録は12月上旬頃公開予定です。

幸手市定住の若者に、奨学金返還の補助を！



四本奈緒美議員

Q 幸手市においては、人口減少が大きな課題となっている。

特に若い世代への幸手市定住を促進する政策として、貸与型奨学金を利用した方で、市内に居住した場合、奨学金の返還額の一部を補助してはいかがかを伺う。

A

貸与型の奨学金の返還支援として利息相当額の一部を補助するといった制度を実施する計画は無いが、現在の対応としては、相談があった際には、借入先それぞれの相談窓口等を案内している。また、幸手市の入学準備金貸付制度については、返還金の減免は行っていないが、相談があった場合には、1回あたりの返還金の見直しや返還方法の変更などの対応を行っている。各種、奨学金制

度の返還支援策については、今後の政策課題としたい。
(教育部長)



「エンディングノート」作成は



小林啓子議員

Q

「エンディングノート」とは、主に高齢者が人生の終末期に備えて、医療、介護、葬儀などについて、自分自身の希望を書き留めておくノートである。

既に全国の自治体、近隣自治体では、白岡市が作成し、配布をしている。

幸手市としても、高齢者本人

A

が病気などで意思表示できなくなっても、本人の希望に沿って家族や周囲の人に対応できるエンディングノートの作成をして配布をしてはいかがかを伺う。

人生の終末期を考えることは、その人が最終までその人らしく人生を過ごすために必要なことであると理解しており、エンディングノートは高齢者が終末期をどう過ごすかを考える一助になると考える。

市では、在宅医療・介護連携を推進しており、住み慣れた地域でいつまでも暮らしていけるまちづくりを進めている。その中で、終末期を家族などとともに話し合うきっかけづくりとしても活用できる。

これらのことから、本市においてもエンディングノートを作成し、希望者に配布したいと考えており、できれば年度内に配布できるよう事務を進めていく。

(健康福祉部長)

デマンド交通について



坂本達夫議員

Q デマンド交通の目的は、「増加する高齢者の日常生活を支える足を確保すること」である。

幸手市の65歳以上の人口を調べると、ここ数年毎年三百人、四百人と確実に増えている。バス利用者数では、循環バスは毎年年間3万1千人程度であったが、デマンド交通では8千

5百人程度と、循環バスの3分の1以下となっている。利用者数を見る限り、デマンド交通は、高齢者の足を確保できていないと思うが市の見解を伺う。

A 市では、増加する高齢者を中心とした市民の日常生活を支えるため、移動が困難な方でも利用できるなど利便性の高い公共交通として、市内全域を対象とした、家の前でも

乗降が出来る柔軟なドアトドア方式のデマンド交通を運行している。

循環バスとデマンド交通ではシステムの違いもあり、一概に利用者数を比較することは出来ないが、多くの方に利用いただけるよう、引き続き庁内の会議や地域公共交通会議で協議し、見直しを行いながら、デマンド交通を運行していきたいと考えている。

(市民生活部長)

ちがう、地震と洪水の避難所



本田謡子議員

Q 幸手市における地震と洪水の避難所の収容人数と、その人数は市民が安心できる状況なのか伺う。また、地震と洪水の避難場所はちがうが、市民は理解していると考えるのか、今後の対策も伺う。

A 幸手市地域防災計画において、指定避難所の収容人数の合計は、地震の場合は18,859人、洪水の場合は13,998人と積算している。特に洪水の場合、事前に避難する時間的猶予が見込まれることから、市外への広域避難も想定している。

地震と洪水の避難所の違いについては、それぞれ想定される災害が違うことから、事前に配布しているハザードマップにて、

あらかじめ各自で確認をしていただきたい。また、市でも引き続き周知を図っていききたい。

(市民生活部長)



広島平和記念式典派遣事業継続の前提として



松田雅代議員

Q 市長在職中の渡辺邦夫氏の広島逮捕事件は市の安全が最優先の公務出張中のモラル無き行為に、「なぜ、あんなことが起きたのか」「歯止めとなる官僚機能はないのか」と市内外から失望の声が聞こえる。

A 市長は辞職という形でひとまずの責任は取ったが、行政にも原因を突き詰め反省と対策を講じる点はあるのでは。随行職員が持ち場を離れることの是非、来年度以降に向けた対応を伺う。

ので24時間、子どもたちを管理する必要があった。役割分担等も明確になっていなかったことを含め、反省し、本来の形に戻していきたい。この事業はすばらしい事業なので、子どもさんも保護者の方でも続けていたきたいと言う要望があったと聞いている。

(市長職務代理者 副市長)

不便なデマンド交通と、栄地区集約について



海老沼隆夫議員

Q ドアからドアまでをアピール続けるデマンド交通。しかし、その利用者数は循環バス時の3分の1まで減少。利用希望者が多数存在するのに利用出来なかったことが、利用者減少の原因と考えると良いか伺う。

A 循環バスとデマンド交通のシステムにおける運行形態の違いもあり、一概に利用者数を比較することは出来ないが、利用者がすべて希望どおりに利用出来なかったことが、利用者数減少の原因とは考えて

いない。

粗大ごみの階段下回収は、粗大ごみへの衝突や粗大ごみの転倒による事故が危惧されるため難しいが、集積所の位置や数を変更することは可能と考えている。ひばりヶ丘桜泉園に直接搬入する方法もあるので、市に問い合わせしてほしい。

(市民生活部長)

幸手団地では集約に伴い、早期移転も始まっている。転居の

神扇地区のごみ屋敷問題解決の進捗状況



大平泰二議員

Q

6月議会以降の文書指導内容と作業規模、搬出量の進捗状況について伺う。

また、今後の指導内容についても伺う。

A

文書指導については、6月28日付けで、一般廃棄物を撤去すること、および土地・建物を清潔に保つことを指導した。

進捗状況については、行為者・環境課職員・埼玉県職員が6月から月1回のペースで廃棄物撤去作業を実施し、概ね1,300kgを搬出した。また、行為者が2回消毒作業を実施した。

今後については、引き続き現地の廃棄物の撤去、消毒作業の

指導を行い、県と協力して問題解決に取り組んでいく。

(市民生活部長)



圏央道側道の久喜市側と接続の必要性・協議



小林英雄議員

Q

現在、圏央道側道の久喜市側との接続において、

葛西用水路により、寸断されている状況である。幸手市側は既に完成しており、側道を繋ぐ橋が架かれば、幸手市民にとって久喜市側へのアクセスが良くなり、利便性の高い東西に走る幹線道路となる。その必要性を鑑み、六月定例会で質問したが、

A

平成十八年度以降、久喜市と協議しておらず、今後久喜市と協議してまいりたいとの答弁であった。その後の協議状況について伺う。

圏央道側道については、行政界である葛西用水路に橋を架けることで、幸手市と久喜市の側道が繋がり、アクセスが容易となり利便性が向上するため、非常に有効であると考えている。

6月定例会後の7月に、久喜市と情報交換を行い、現在の久喜市の圏央道側道の整備状況や今後の予定を確認したところである。

今後も機会を設け、久喜市の事業の進捗を見ながら、必要に応じて協議や情報交換を行っていきたいと考えている。

(建設経済部長)

幸手桜高校について



青木 章議員

Q

埼玉県教育委員会は、現在の県立134高校を2029年4月までに121〜124校程度に減らす計画を決めました。県教委は、適正な学校規模を1学年6〜8学級としています。幸手桜高校は、5クラス200人の定員です。また、応募者数が定員ギリギリであり、今後の存続が心配です。そこで

A

幸手桜高校は、統合前の幸手商業高校からの古い歴史を有し市民にも多くの卒業生がおり、市民に愛着を持たれ、幸手になくはならない学校です。多くの方が幸手桜高校

を知り、魅力を感じてもらえるよう、そして進学希望者の確保を図るために、市と高校、地域とで様々な事業で連携を図っていききたいです。しかしながら、市職員の採用試験においては、公平に選考を行うという観点から、幸手桜高校の生徒を優先して採用することはむずかしいです。

(教育部長)

幸手市郷土資料館の充実・振興について



小河原浩和議員

Q

幸手市郷土資料館はおよそ1年前に開館し、幸手市の古代から現代に至るまでの歴史がわかる展示や人々の日々の生活を感じられる多くの民具がテーマ別に展示されており、幸手市の歴史学習の貴重な施設と思う。周辺整備を含め、今後の充実・振興策を伺う。

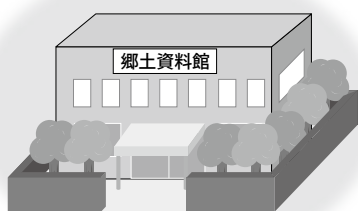
A

郷土資料館では、市の文化財や歴史資料などを守り伝えるとともに、市民の皆様が幸手の歴史や文化を学ぶことにより郷土愛の醸成を図り、更に、幸手の魅力を広く市内外に発信することにより、まちの賑わいを作り出していききたいと考えている。

また、自然豊かなこの地域に、市民の皆様の学びの場、憩いの場、集いの場を提供できる文化的な空間を創造し、新たな歴史

文化の拠点づくりを、地域の皆様と連携し取り組んでいききたいと考えている。

(教育部長)



行幸湖を活かした地域経済の発展を問う



木村治夫議員

Q 市民が郷土の自然や文化に触れることができる環境設備、また、市の魅力を発信し、地域経済を増進してゆく観点から、行幸湖の活用について伺う。

地域特性を生かした、行幸湖その周辺設備をどのように活かしてゆくのか、また、行幸湖の観光資源発掘についての市の見

解は、各公園を結ぶ回遊型観光が重要と考えるが市の考えは、2号公園整備完了後、多くの県民が訪れる、2市1町で地域連携し、行幸湖活用のための対策協議会設立にむけ調査願いたい。

れた際は、様々な楽しみ方ができる憩いの場となることが期待されることから、埼玉県と連携し、行幸湖周辺を回遊できるような観光ルートの発掘・整備を進めていく。

A 行幸湖は、現在、カヌーやドラゴンボート大会、さくらマラソン大会のコースになつていゝるなどスポーツを中心に活用がされている。

なお、行幸湖活用のための2市1町との協議会の立ち上げについては今後の検討としたい。

権現堂公園2号公園が開園さ

(建設経済部長)

ニトリの造成工事が始まる気配がないが



枝久保喜八郎議員

Q 幸手中央産業団地の最大面積契約事業者であるニトリの造成工事が始まる気配がないが、土盛りまたは地質等に問題が発生していることはないのか。

また、圏央道五霞インター横に最新テクノロジーを駆使した巨大物流施設「GLP圏央五霞」が完成し、ニトリの100%子会社

である(株)ホームロジスティクスが7割近い約9千500㎡をテナント契約しているが、これとの関連を確認しているか。新市長には、ニトリと県企業との交渉を最速でお願いしたいが。

い。同社の店舗開発の担当者からは、令和2年6月の着工予定と聞いていたが、6月に確認をしたところ、社内で協議中であるとのことであった。

A 株式会社ニトリホールディングスからは、土盛りを3mしたいとの要望があり、周りにどの様な影響が生じるか検討している。また、地質調査に問題があったとは聞いていな

今後とも早期着工ができるよう確認等をしながら対応させていただきます。

(建設経済部長)

市長辞任と退任式とは



武藤寿男議員

Q

平和都市を宣言している本市の長い歴史ある平和事業である、中学生の広島市記念式典派遣事業であるが、同行していた統括責任の立場にある渡辺市長が、取り返しのできない事件をおかした。

広島市を始め関係各方面、幸手市民、全国の多数の皆様にご心痛ご迷惑をおかけしたもので

A

8月20日付けで、「令和元年8月21日をもって、退職したいので申し出いたします。」との「退職申出書」を渡

辺前市長が議長に提出した。その後の臨時会において、議員全員の同意を得て退職することが決定されたことから、退職日の8月21日午前8時20分から管理職級職員を対象に退任式を行ったものである。

「退職申出書」を提出し、議会の同意をいただいていたの退職であるので、通常どおり退任式を実施したものである。

(総合政策部長)

シルバー都市宣言(仮称)について



藤沼 貢議員

Q

高齢化の進展とともに、ワンポイントで高齢者が抱えるすべての問題に対応できる制度の確立が必要と考え、仮称だが「シルバー都市宣言」を提案するが市の考えを伺う。

A

市の高齢化率は上昇しており、認知症や詐欺被害など高齢者を取り巻く問題も増加が予想される。こうした問題にワンポイントで対応する制度を確立するというのは意義のあるものであると考える。

当市では地域で見守り支えあう仕組みづくりなど、住み慣れた地域での生活を長く維持できるように地域ぐるみの支援を進めているが、さらに積極的に関わっていく必要を感じている。

今後は、関係職員の資質の向上に努める他、地域の協力を得ながら、ワンポイントで高齢者がかかえるすべての問題に対応できる制度の確立をめざしていく。

(健康福祉部長)

